

令和7年度 点検・評価報告書

学科名・専攻名 看護学部看護学科

1. 教育・学習に関する点検・評価項目

①学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

自己評価 (☑を記入)
<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない
点検項目に対する現状説明
<p>保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則った保健師及び看護師養成の教育課程に加え、当学看護学科カリキュラム・ポリシーに基づいた授業科目を配置し、1年次から体系的に積み上げて学ぶことができる編成になっている。令和4年度から新カリキュラムに変更したが、旧カリキュラムの学生も在籍しているため個々の履修状況の確認及び計画・実施が必要であった。また令和6年度改定版看護学教育モデル・コアカリキュラムが出されており、検討の上次年度改定予定とした。</p> <p>保健師課程については、3年次の応用実習を調整し4年次前期にかけて実習を含めた必修科目を履修ができている。</p> <p>「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」は継続して1年次で全員が履修できしており、象徴科目「看護と情報Ⅰ～Ⅳ」と併せ、本学の特徴として学んでいる。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色
<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none">・看護師養成カリキュラムに沿って体系的に看護学を学ぶことができる。・選考された学生が保健師養成カリキュラムも併せ履修ができる。・数理・データサイエンス・AIプログラム(リテラシーレベル)を全員が履修できる。 <p>【特色】</p> <p>・仮想総合病院の全診療科に渡る診療録の閲覧及び看護記録の記載が可能なシミュレーション版電子カルテを教材として導入し、学内でのリテラシーレベルの学習及び臨地実習での応用が可能になった。また、様々な医療現場を体験できるVRシステムを導入し、実際に経験しにくい診療場面の経験や情報収集及びアセスメントの教育方法が広がった。</p>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none">・新旧カリキュラムが混在し、学生へのわかりにくさ及び教員の負担があった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年度改定版看護学教育モデル・コアカリキュラムに対応し、且つ当学の特徴を含めた新カリキュラムを作成する。・旧カリキュラムの学生の学修支援が必要である。
根拠資料
教務委員会議事録 学生ハンドブック 2025

令和7年度 点検・評価報告書

②課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっているか。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っているか。

自己評価 (☑を記入)
<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない
点検項目に対する現状説明
<p>看護学部開設時から2年次と4年次に実施しているPROG-Nの結果を学生及び教員にフィードバックし、教育効果を検討している。次年度から入学後の変化を評価するために実施時期を2年次から1年次に変更する。</p> <p>2024年度よりチューター制を導入し、年2回を基本に学生と面談し、学生の学習意欲及び友人関係や他の学習環境等について相談にのっている。また、学生連絡会議を定期的開催し、教員間で学生の情報を共有のうえ学生対応にあたっている。</p> <p>GPAが1.0以下、欠席や科目の評価に不可が多い学生については適宜面談し、必要な時は保護者に連絡をとり対応している。</p> <p>国家試験対策の学習については、委員会を設置しゼミ担当教員と委員が連絡をとって学習支援を行った。4年次後期は学習状況別にグループに分け、オンラインと対面指導を併用し指導した。また、1～3年次に対しても模試及び特別講義を実施し、国家試験に向けた学習の動機付けとした。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色
<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none">・PROG-Nの実施によりコンピテンシーの変化を把握できる。・チューター及び国試対策委員、ゼミ担当教員により個々にあった丁寧な学習支援ができています。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none">・PROG-Nにより学生が自身の成長を可視化できる。・チューター制及び少人数学習支援により個別性に合った学習支援を行っている、
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none">・PROGによるアセスメントの結果をどのように学生指導に生かすかを全教員で検討のうえ計画する必要がある。費用対効果も検討途中である。・個別指導により教員の負担が大きい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・PROGの結果を活用したカリキュラム検討と個別性に合った指導体制を検討する。
根拠資料
教務委員会議事録 国試対策委員会議事録 PROG 報告書 学生ハンドブック 2025

③成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

自己評価 (☑を記入)
<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない

令和7年度 点検・評価報告書

点検項目に対する現状説明
<p>成績評価については、年度開始前に各科目責任者の作成したシラバスの内容を教務委員会で確認している。シラバスには評価基準を明記のうえ実施するとともに、年度開始時のガイダンスで、進級及び卒業要件に必要な科目履修を学生に確認し、チューター教員を中心に必要単位が修得できるようアドバイスを行っている。</p> <p>学生の履修状況は、教務委員会及び学科教員会議で共有し、年度末の進級・卒業要件認定会議において確認し実施している。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色
<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター教員と学生で科目履修の振り返りができている。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次への進級要件の設置により、ディプロマ・ポリシーに適った学生が看護師国家試験を受験するようになった。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次入学後から、欠席が多い学生が存在する。 ・継続の意思はあるが4年間で卒業できない学生が増加している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーな学習及び進路の相談体制と、個々にあった学習支援を要する。
根拠資料
<p>教務委員会議事録 学生連絡会議記録 学生ハンドブック 2025</p>

④学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

自己評価（☑を記入）
<p>☑ している ☐ 一部している ☐ していない</p>
点検項目に対する現状説明
<p>2024年度までディプロマ・ポリシーの達成度を評価する卒業生調査を毎年実施、更に2024年度に実施した卒業生就職先職員インタビュー調査を実施した。その結果から、基礎的能力の習得、主体的に学習する力、実習を通じた成長体験、就職先のマッチングが示唆された。今年度は特にこれらの点を考慮し、専門科目における学習状況、学内演習及び実習事前学習の検討を個々の教員が行うとともに、臨地実習指導者連絡会議において、実習指導について継続して意見交換を行った。</p> <p>就職支援については、キャリア担当教員及びゼミ担当教員が学生の相談にのり、個々の特性と希望に沿って決定できるよう関わった。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色
<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果に基づいてディプロマ・ポリシーが評価されている。 ・少人数制のゼミとキャリア支援体制により学生の就職相談に対応できている。 <p>【特色】</p>

令和7年度 点検・評価報告書

<ul style="list-style-type: none"> 卒業生調査及び学生アンケートによりディプロマ・ポリシーを評価し、教授内容と学生支援について検討する体制がある。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生アンケートは対象が限られ、学生も変化しているため、継続した評価が求められる。 全ての学生に卒業時の到達目標を達成するための更なる方法の検討が必要とされる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラム改定のためにディプロマ・ポリシー及び評価方法を検討する。
根拠資料
教務委員会議事録 実習委員会議事録 卒業生就業先調査報告書 学生ハンドブック 2025

⑤教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいるか。

自己評価（☑を記入）
<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない
点検項目に対する現状説明
<p>各専門領域会議及び教務委員会、実習委員会において、教育課程及び内容、方法について評価し、意見交換を行っている。ディプロマ・ポリシーの達成度を評価する卒業生評価は継続して実施している。また、次年度のカリキュラム改定に向けて全教員にアンケート調査を実施し、評価を行った。</p> <p>看護学部モデル・コアカリキュラムについて、教務委員らが研修に参加し理解を深めた。また、卒業時に求める能力についてFDを行い、検討した。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色
<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各専門領域及び学科教員全体が少人数のため、意見が反映されやすい。 委員会を中心に点検・評価する仕組みがある。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門領域及び教務委員会を中心として点検・評価、改善・向上に向けて取り組んでいる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員数が少ないため、場合により評価・検討の考えに偏りが生じる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門領域での評価・点検及び取り組みを全体で共有し、体系的にディプロマ・ポリシーの達成に向けた検討を進める。
根拠資料
教務委員会議事録 実習委員会議事録

令和7年度 点検・評価報告書

学生ハンドブック 2025

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

①学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

自己評価（☑を記入）
☑ している □ 一部している □ していない
点検項目に対する現状説明
<p>今年度「非常事態宣言」のもと、入学者確保のため再生委員会を組織し定期的に入試広報課と看護学部教員により対策を実施した。</p> <p>3月から6月まで月1回、7-8月で3回実施したオープンキャンパスは、企画を大幅にリニューアルし、学生と教員が一緒になり熱意が伝わるよう実施した。サマーキャンプも初めて2日間の企画で実施し好評を得た。オープンキャンパス来場者数は前年と大きくは変わらなかったが、アンケート結果の満足度は高く、年内入試受験者数は増加した。4-6月は過去に入学生がいる高校の訪問を行い、看護教育及び入試制度と当学の特徴を伝えた。</p> <p>入試制度を見直し、「特待生総合型選抜（医療従事者ファミリー入試）」「特待生総合型選抜（地域貢献入試）」を設置、「医療従事者ファミリー入試」は web 等での広報に加え実習施設へのチラシ配布、看護協会ニュースへの継続掲載などで広報し受験者数を確保できた。また次年度に向けて、アドミッション・ポリシーに照らし入試制度を再検討した。</p>
<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数の学生の協力を得て、総合情報学部と協力し広報活動ができている。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から広報協力学生が多数おり、主体的に活躍できる。 ・総合情報学部の教員と協力して大学全体が同じ熱量で広報活動ができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス及び高校訪問の活動に多くの時間が費やされる。 ・限られた学生が広報に参加している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力学生の募集と教育を進める。 ・オープンキャンパスの企画の再検討及び入試広報課、参与との協力体制を継続する。
根拠資料
<p>入試広報委員会議事録</p> <p>東京情報大学 HP 入学者選抜試験情報</p>

②学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

自己評価（☑を記入）

令和7年度 点検・評価報告書

<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない
点検項目に対する現状説明
<p>全学入試広報委員会及び学科入試広報委員会、学部長・学科長により定期的に入試広報活動を検討し意見交換する体制がある。前年度末に決定した入試制度「特待生総合型選抜（医療従事者ファミリー入試）」及び「特待生総合型選抜（地域貢献入試）」については定員以上の受験者が確保され、新制度の適切性は評価された。しかし「地域貢献入試」は更に制度変更を検討している。</p> <p>口頭試問は面接に含む方法に変更し、昨年までのように口頭試問で回答できず落胆して帰宅する学生は無くなった。また特待生枠の増加により、学費の面から大学ではなく専門学校を選択する学生の進学が期待される。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色
<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試広報委員会及び学部長・学科長により検討する体制がある。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的に学生受け入れの適切性を検討し、改善に向けて取り組んでいる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医療従事者ファミリー入試」「地域貢献入試」の入学生の学力評価は十分でない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学後進路変更や学習意欲の低下で退学する学生の、入試制度及び審査結果との関連が分析できていない。
根拠資料
入試広報委員会議事録 大学 HP 入学者選抜試験情報

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

- ①教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげているか。

自己評価（ <input checked="" type="checkbox"/> を記入）
<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない
点検項目に対する現状説明
<p>基盤看護分野（基礎看護学領域）、成人・高齢者看護分野（成人看護学領域、高齢者看護学領域）、成育看護分野（母性看護学領域、小児看護学領域）、地域看護学分野（精神看護学領域、在宅看護学領域、公衆衛生看護学領域）の4分野8領域で継続して活動している。しかし1教員のための領域があり、臨床教員及び実習教員が学内演習及び臨地実習指導を共に担当し教育活動が成り立っている。</p> <p>教授及び准教授も実習指導を担当し、助教も一部講義を担当している。臨地実習は7月から2月まで断続的に実施され、同時期に他年次生の講義も実施する。そのため研究活動は時間の確保に工夫を要する。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色
<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の領域でコミュニケーションがとりやすい。 <p>【特色】</p>

令和7年度 点検・評価報告書

・ 職位に寄らず、皆で教育活動に取り組んでいる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
【問題点】 ・ 1人あたりの業務負担が大きく、研究活動は業務時間外が増える。 ・ 各領域の人数が少ないため、不和の際教育研究活動に支障を来す。 【課題】 ・ 公平に皆で協力する教育活動体制を整備する。 ・ 研究活動の時間を確保する。 ・ 領域内での教育研究活動の教育体制を進める。
根拠資料
大学 HP 学生ハンドブック 2025

②教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげているか。

自己評価 (☑を記入)
☑ している □ 一部している □ していない
点検項目に対する現状説明
<p>総合情報学部教員との研究情報交換会を3回実施し、臨地実習施設と看護学部教員及び総合情報学部教員と学生の共同研究も開始した。</p> <p>今年の科学研究費助成事業への申請を促し、多数の教員が申請した。</p> <p>任期制教員の研究の取り組み状況を把握し推進を促した。また、プロジェクト研究にも4つの研究グループが取り組み成果を報告した。</p> <p>個人研究費による個々の教員の前年度の活動報告と今年度の計画を把握し、推進を促した。</p> <p>教育に関するFDを、臨地指導者会議として実習指導方法の検討を1回、卒業時に求める能力の検討について1回実施した。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色
【長所】 ・ ほとんどの教員が主体的に研究活動を行っている。 【特色】 ・ 領域単位ではなく、個々の教員が他学部や学外研究者と共同で研究に取り組んでいる。 ・ 総合情報学部教員との共同研究が増加している。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
【問題点】 ・ 学科内教員の研究活動の共有が十分されていない。 ・ 教育方法及び評価など教育の工夫は個々に任されている現状にある。 【課題】 ・ 看護学部教員間での研究内容の情報交換を行う。 ・ 領域内または学科内での研究支援体制を進める。

令和7年度 点検・評価報告書

<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法及び成人学習の理解に関するFDを行う。 ・臨床教員及び実習教員の教育方法を検討する。
根拠資料
researchmap 2025年度看護学部年報 各教員の2025年度研究計画書

③教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいるか。

自己評価（☑を記入）
☑ している □ 一部している □ していない
点検項目に対する現状説明
<p>教員の専門性、経験、希望を踏まえて教員配置を行っているが、本年度も定員に満たない領域があり、専門外での担当や実習教員の雇用により補った。委員会を複数担当し、加えて国家試験対策の学生支援も多くの時間を要した。</p> <p>教授会及び学部長・学科長で適宜教員組織の評価と改善に向けた意見交換のうえ対応しているが、領域の特徴や担当する委員会などにより、負担の偏りが生じている。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色
<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員数は少ないが、大多数の教員は創意工夫して時間を捻出し学生中心の教育と主体的な研究活動にあたっている。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職位に関わらず意見交換ができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野及び領域での教員間の教育支援体制が十分でない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会組織及び活動方法を検討し、少人数で最大効果のある活動方法と内容を進める。 ・教授会及び各領域、教員会議での意見交換と組織体制を推進する。
根拠資料
2025年度看護学部委員会及び組織図 2025年度看護学部年報